

資料4 地域ヒアリング調査

1 地域ヒアリング調査の概要

本計画の意義、目的などについて理解を得るとともに、地域の環境特性、課題についての情報収集を行うことを目的とし、旧町ごとに分けた4地域を対象として、地域ヒアリング調査を行いました。

概要については以下のとおりです。

- (1) 調査方法：旧町ごとにヒアリングを実施。参加者を4、5名程度にグループ分けし、ワークショップ形式で環境面における地域の『良い点』、『悪い点』について提案してもらう。
- (2) 調査期間：平成21年11月25日(水) 20:00～22:00 日吉地域
12月2日(水) 20:00～22:00 八木地域
12月7日(月) 19:30～21:30 美山地域
12月15日(火) 20:00～22:00 園部地域



園部地域



八木地域



日吉地域



美山地域

2 地域ヒアリング調査結果（要約）

① 園部地域

■ 人づくり

- ・ 環境に対する意識が高いとは言えない状況である。このため、まち探検など地域の環境の見直しを行う取り組みなどを通じて、地域の関心を高める必要がある。
- ・ 地域内での住民同士の横のつながりをもっと強くするべきである。
- ・ 学生が多い地域であるため、これを活用していく必要がある。

■ 生活環境

- ・ 河川について、水質が悪化しているとともに、河道内へ土砂が堆積した場所が竹やぶ化しており、水害が発生する恐れがあるため、対策が必要である。
- ・ 新しいトンネルや道ができたことで、生活の利便性が高まった反面、排ガスの発生やごみ問題など新たな問題が発生するようになった。
- ・ 不法投棄や野焼きなどが地区内で見られる。農業用ビニールなどの野外焼却については、農協と協力するなどの対策が必要である。
- ・ 廃棄物処理施設による環境への影響について、継続的に監視する必要がある。

■ 地域環境資源

- ・ 里山や田園など自然が豊かであり、景観的にも優れている。竹井などホテルが見られる地域もあり、保全に努めている。その反面、山林の荒廃やマツタケが取れなくなったり、野生動物による獣害なども問題となっている。
- ・ 地区内には、歴史ある神社や文化遺産などが数多く残されている。園部城址や小向山は、地域の人々に親しまれているが、頂上などの整備がされていない。
- ・ 地域におけるシンボルがあまりない。道路に名前をつけるなど、地域の特性を活かす必要がある。

■ 循環型社会

- ・ ごみの適切な分別、不要なものは買わないなどの3Rの取り組みが定着してきている。

② 八木地域

■ 人づくり

- ・ 花火大会後のごみ拾いに約 100 名のボランティアの参加があるほか、老人会や婦人会の社会奉仕活動、自然観察会など地域活動が活発に行われている。
- ・ 森林環境ネットワーク、E E F A 南丹など環境に関連する団体がいくつか存在している。
- ・ 地域によっては子供が少なくなっている。このため地域の活力が失われ、環境への取り組みどころではなくなっている。

■ 生活環境

- ・ 空気が良く、良好な環境が保たれている。また、河川水質についても以前と比べるときれいになってきた。
- ・ 場所によって河川や用水路などへのごみのポイ捨て、不法投棄が見られるため、改善していく必要がある。また、犬のフンのマナーへの対応も必要である。

■ 地域環境資源

- ・ 大堰川には多くの水鳥の姿が見られ、大堰橋とともに良好な景観が保たれている。周辺は遊歩道として整備されており、花火大会などのイベントも行われるなど、人々の憩いの場としてこれからも大切に守っていかねばならない。
- ・ 八木の街道筋は、昔ながらの町並み景観が残されており、今後も守っていかねばならない。
- ・ 米、京野菜など地元産の野菜は、味が良く、安全安心に食べることができる。
- ・ 良好な自然環境が維持されているため、サクラやモミジなど自然景観やホテル観察会、山菜取りなど四季折々の楽しみがある。しかしその反面、維持管理不足による山林の荒廃が起きており、山林の維持管理を行うのに費用がかかり、手が回らない状況である。
- ・ 耕作放棄地が増加してきている。
- ・ 昔から伝えられている流鏝馬（やぶさめ）など神事や地域の伝統などがあるが、これらが伝えられず消えつつある。塚本古墳といった地域の歴史資源についても今の子供達は知らないのではないか。

■ 循環型社会

- ・ ごみの分別に積極的に取り組んでいる。集団回収については、お年寄りにとって不便で出しづらいため改善する必要がある。
- ・ 地下水がおいしいことから、井戸水を飲料水として利用している家庭もある。これらを守っていかねばならない。

③ 日吉地域

■ 人づくり

- ・ 地域の活動団体として、日吉町ボランティア協議会や丹波ネットなどのNPOが地域で活動を行っている。しかしながら、これらの情報が広く共有されていない一面も見られる。情報共有の手段の一つとして、活動内容の発表の場を設けるなどの取り組みが必要である。
- ・ 合併によって行政と住民の間の距離が遠くなった気がする。もっと身近に感じられるように、日吉地区版の広報誌を作成するなどの対策が必要なのではないか。

■ 生活環境

- ・ 空気がきれいである。また下水道の整備が進んだことで、河川の水質が良くなった。
- ・ 村境など目の届きにくいところに不法投棄やごみのポイ捨てなどが多く見られ、高齢化などによって周辺環境の美化活動ができなくなってきている。また、ビニールごみなどの野外焼却を行っている住民もいる。

■ 地域環境資源

- ・ 河川には川魚が多く、また水路にホタルの姿を多く見かけることができる。また、オオサンショウウオの生息地や野生ランの群生地もあり、貴重な生物の生息地が残されている。
- ・ 新緑や紅葉など周囲の自然の山々の景観が美しく、また、桜並木や道路沿いに並べられた花壇なども良好な景色を作っており、心が和む。
- ・ 山林、田畑の荒廃が発生しており、マツタケが取れなくなるなど、以前と環境が変わってきている。またシカ、イノシシなど獣害被害も発生しており、獣害対策を行ってもあまり効果が見られない状況である。
- ・ 火祭りなどの地域の伝統行事や鯖街道、神社などの歴史資源が地域に多く残されている。また、丸山城跡については、地域のシンボルとしてもっと整備しても良い。

■ 循環型社会

- ・ ごみの分別が積極的に取り組まれている。

④ 美山地域

■ 人づくり

- ・ 美山は自然が豊かであるため、環境意識の高い人がIターンなどで移住することが多い。このため、全体的に環境意識が高まっていると思われるが、人によってギャップが大きい。今後、自然学習会などを行い、全体的に高めていく必要がある。
- ・ 山や田畑を守るため、また先人の知恵を伝えるため、後継者の育成を図っていかなければならない。しかし働く場所がなく、若い人が増えないことが問題である。

■ 生活環境

- ・ 河川の水は、地域によっては水泳場として利用できるほど水が澄んでおり、この水質維持に向けて合成洗剤を使用しない運動などが進められている。しかしながら、以前と比較すると少しずつ水質が悪化しており、河川の水量が減ったため、河川内に土砂が堆積し、ヨシが繁茂するなどの問題が発生している。
- ・ 空気がきれいで騒音も少ない。しかし、道路環境が改善されたことで、他地域からの車の流入が増え、騒音や不法投棄などの問題が増えた。

■ 地域環境資源

- ・ ホタルなどの身近な生き物から希少種まで、多くの動植物が生息している。しかしながら、山や田畑の管理をする人の減少、マツ枯れ、ナラ枯れなどによる山林の荒廃、シカやイノシシなどの獣害が問題となっている。また、以前と比べてカラスが増えている。
- ・ 由良里街道などの道路沿いや家のまわりに花植えがあちこちで行われていることで、『色のあるまち』づくりが進められている。また、集落や里山、農地からなる原風景的な景観が守られている。
- ・ 諏訪神社の大祭など多くの文化財が残されており、地域には古民家も多い。古民家については、高齢化に伴って空き家が増えているが、容易に人に貸すことができない。

■ 循環型社会

- ・ ごみの分別は積極的に取り組まれており、人によっては生ごみのコンポスト化を行っているなど、3Rの取り組みが普及している。しかしながら、分別後の物の流れやリサイクルするためにどこまできれいに洗えば良いかなどの情報が不足しており、闇雲に取り組んでいる部分があるので、市にもっと情報提供してほしい。